

	委員名	意見	その他自由意見
1	植木 康夫	<p>休憩機能・情報発信機能は設置基準を充分満たし、特に重視 特にトイレは女性重視の為、数的には3倍量を パウダールームも必要 交流体験機能・地域連携機能重視 前橋特産のアピール(豚・野菜・レンガピザ窯のコラボで日本一のピザ窯料理の提供)窯を数 多く設置し超高温、高温、中温、低温と4温度帯の異なる調理法でそれぞれの特性を生かした 料理の提供 おいしさを最大のテーマとした飲食施設(熟成豚のおいしさをアピール) 豚シャブを廉価にて提供(名物料理化) 豚肉加工体験(ハム・ソーセージ作り)</p>	<p>・グリーンツーリズムの窓口の設置、赤城山南面の野菜 農家と連携してグリーンツーリズム実施補助 ・魅力ある道の駅には防災関連施設はない方が良い。 防災施設は普段は利用しないで、いざの時に備えるの で、新日赤病院や相馬が原の自衛隊基地や既存の物流 設備を利用する方が効率的である。</p>
2	中村 宏	<p>1 該協議会(H27.8.31)の第一回の会議において 道の駅の設置とその場所及び道の駅の導入機能の方向性が明示されました。その方向性 の一つとして、防災及び復旧のための拠点としての役割を担うことが確認されました。 当日示された”導入機能整理表”の中に、防災拠点及び復旧拠点として備えるべき数多くの 具体的な機能が例示されています。これらの諸機能や諸施設等については、今後の検討会 の中で取捨選択が行われ、同時に新しい必要機能が付加されてゆくことを期待しています。 私の提案したいことは、新道の駅の具有する防災拠点及び復旧拠点としての機能及び役割 に関して、以下の三つの地域に分けて、但し、それぞれを相関連させながら検討してゆく必要 があると思います。 (1)新道の駅を中心とした前橋及び周辺地域 (2)県都前橋として、県央地域(前橋・高崎・藤岡・伊勢崎と周辺)に対しての果たすべき役割 (3)群馬県そして県都前橋は首都圏北部の玄関口でありますから、新道の駅は首都圏の防 災及び復旧に対して何らかの役割を担う必要があると思います。</p> <p>2 上武道路は、2017年度において全線完成予定であり、新道の駅も国道完成に合わせて事 業開始をする計画と報じられています。 一方、関越道駒寄スマートインターの改修は、2017年度に終了し、その時点において大型車 の通行が可能であると報じられています。 この吉岡地域は、新道の駅と近接域は隣接しています。新インターチェンジ周辺と新道の駅 地域とは、一体一括して前橋市が提唱している”新しい前橋の産業化地域とロジスティック拠 点化”の計画を推進して頂きたいと思います。その該地域内に防災上必要とされている諸機 能を保持させては如何— —緊急電源装置、上水保管機能(井戸を含む)、医療品や食料の物流保管機能、災害後の道 路復旧保全機能、廃棄物処理等々。猶、行政府は既に建設業界及びトラック業界に協力要請 済であると報じられています。</p>	

5	関根 福寿	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩機能は観光バスに配慮したスペース(トイレの数等も配慮) ・地域連携機能は赤城山を中心とした観光資源と地場産品、赤城の恵等をパッケージ化し、首都圏を中心とした旅行会社への販売を行う。 (イコール情報発信にもなりえる)～四季を通して商品化 ・施設内での滞留時間が長くなる施設、空間を創る。 (交流体験～そば打ち、ピザ焼き等) (足湯施設～温泉) ・農産物直売所導入は、観光客に配慮した午後の品薄感のないよう配慮が必要。 ・道の駅に旅行業機能を持たせる。(斡旋業等も出来る。とみうら方式) 	
7	狩野 亮一		<ul style="list-style-type: none"> ・近隣田口町内にあり、繭と生糸で栄えた前橋を象徴する、歴史的建造物「塩原蚕種」との連携及び有効活用の検討 ・赤城山総合PR拠点として、観光(近隣)案内機能の強化 ・既存農産物直売所と、win winの関係を構築する為の連携強化 ・ヨーロッパの「マルシェ」市場をイメージした、オシャレな演出による、農産物直売所の創成
8	高坂 欣一	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に、道の駅として備える休憩、情報発信などの機能の他、子育て世代が暮らしやすい前橋市をアピールするため、ふなばしのアンデルセン公園的な都市型の公園(施設整理表で言えば、多目的広場)を併設した「道の駅」はかかがでしょうか。 ・また、災害時の防災拠点としての機能も備えるものとする。 	
9	藤野 隆司	<ol style="list-style-type: none"> 1 大型車両等の駐車場及びドライバーが仮眠のとれる休憩施設(シャワー室・仮眠室等) 2 大型車両等の給油施設・EV・水素ステーション、車輛の点検・整備・修理のできる施設 3 災害発生時にレスポンス良く対応出来る防災機能を持つ。 地元が被災した時と他地域が被災した時の災害支援体制の拠点にする。 (被災者の受け入れ、緊急物資の調達・保管・入出荷・配送の仕組みづくり、地震・台風・雪害・水害・風害等に対する危機管理体制の実行拠点にする。) 4 赤城山麓周辺で取れる農産物・畜産等を地域ブランド化する。(仮称「あかぎ野」) 地域ブランドの名称を商品(生物・加工品等)や食事・食べ物等を統一ブランドにする。 5 地元の美味しい珍しい食材をいろいろの分野の店で提供し、食で地域をアピールする。 仮称「あかぎ野うまいもん街」を作り、利用者・観光客・地域住民のコミュニティにする。 6 観光客だけでなく、地域住民も買いに来たくなる魅力的な市場(仮称「あかぎ野マルシェ」) 地元の農産物・畜産等を中心に、他地域の魚介類等も取り入れた便利な市場の開発する。 7 名物を創る。シルクで世界に名を轟かせた「マエバシシルク」を再発見・再発掘する。 シルクに係わる商品の開発をする。(繭・生糸・桑・かいこ・織物・小物・食べ物等) 8 日本一商品を開発する。「とんとんの町マエバシ」を最大限アピールする為に、豚にあらゆる事に拘り、魅せる・食べる・買える等の「とんとんランド」を開発する。 9 施設の建物は、文化・歴史をイメージする物、地域ブランドをイメージする物、地域そのものをイメージする物等、特色特徴のあるものにする。 	

10	相澤 克也	<p>・川場の田園プラザを見ても総花的でこれといったポイントが見えない。 #都会にできる道の駅として全体的にハイセンスな一時的なものでなくこれからの若人に好かれ、長持ちのする施設にしたい。</p> <p>・地域の道の駅として上武国道の利用者のためのみならず地元前橋市、近郷の住民に愛される施設にしたいと思います。 また、県外のお客様には多くの道の駅の中からこの施設には又来たいと思ってもらえる施設を目指してゆきたい。</p>	<p>・今までの道の駅は都会の方に向けた田園風情の施設だが都会の方は飽きやすいのではないか。同じ施設でも都会的センスを兼ねそろえた施設を目指したい。</p> <p>・特に目立つのは田園プラザは何でもありで賑やかですが全体的に価格構成が都会並み以上です、設備投資に費用が掛かり無理もありませんが、オリンピック後の構造的な不況が予測されます。安かろう、まずかろう、悪かろうでは響きを買うでしょう、この辺の思枠を加味してこの難題をクリアしてゆきたいですね。</p> <p>・兎に角、飽きの来ない前橋道の駅を誕生させるため英知を結集し完成させたいです。</p>
11	浪川 桂一郎	<p>・導入機能の考え方として、主要利用者の想定が必要 →基本的には、周辺居住者の日常利用を促進することが、道の駅の維持には不可欠 観光客をメインとすると、利用者の季節、曜日の変動が大きいため、経営が安定しない。 →前橋市内の道の駅であることから都市型の道の駅を想定すると、利用者イメージは、地域住民の日常利用を中心に観光・来街者を+αと捉える。</p> <p>・地域住民の日常的利用を想定した場合に重要となる機能(商圈が比較的狭い) →最寄品の購入、飲食が中心で、公的機関の出張所(周辺に同種機関がなければ)など日常的に来訪してもらえること仕掛け、仕組みが重要である ※農産物直売、惣菜販売 農産物等の直売:仕入体制が構築できること、農産物の種類が充実できること 惣菜販売 :市内の居住者が、仕事帰りに購入できること</p> <p>・観光・来街者を想定した場合に必要な機能(商圈が広い) →道の駅に来訪する人向けには、直売、飲食施設に加えて、周辺情報の提供機能(道の駅で利用する機能) →周辺の観光スポットとの連携が重要。周辺の道の駅との違いを出していくこと。 南房総市内には8つの道の駅があるが、それぞれ道の駅の特徴が違っている。 枇杷倶楽部 :観光客中心、軽食、枇杷の加工品販売、一括受発注システム とみやま富楽里:直売(農産物、海産物)、飲食(テナント) 高速道路のPA(ハイウェイオアシス)を兼ねる。 ちくら潮風大国:直売(海産物)、レストラン おおつの里 :枇杷倶楽部のサテライト的位置づけで花積み体験中心 和田浦wao! :和田地区の特徴であるクジラを道の駅のコアに添えている</p>	<p>・地域創生で日本版DMOの形成が言われているが、これまでも同種の議論がなされてきているが、安定している組織は少ない。その一つの理由としてはDMOの経営基盤が弱いことが大きいと考えている。特に人材、財源の問題は大きい。 その意味で、多くの地域が持つ道の駅は地域の収益装置として捉え、道の駅の利益を地域に再投資していく循環の仕組みが目指すべき姿であると考えている。地域に大きな集客要素、収益機能が乏しい場合は、道の駅を中心として集客→消費(収益)→地域内投資の循環づくりが重要である。 ※DMOは地域の戦略策定、各種調査、マーケティング、商品造成、プロモーションなどを一体的に運営する組織で、主に欧米で発展している。その日本版が地方創生を旗印に全国で花開きつつある。 ・道の駅の組織体制、運営の仕組みは極めて重要である。次のステップかもしれないが、機能に合わせて運営体制も十分に議論する必要がある。</p>

12	小林 善紀	<p>・道の駅として必要な規定の機能(駐車場、トイレ、救急対応システム等)は規定通りでOKと思います。</p> <p>・規定以外の機能については先ず前橋(赤城地域)ならではのコンセプトの合意があるべきです。</p> <p>以下を提案します。</p> <p>①地域観光の発信基地 赤城山ツーリズム(エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、スポーツツーリズム)を発信していくプラットフォームとしてのコンシェルジュデスクとマネージャー</p> <p>②「TONTONのまちまえばし」をまるごと売り出す。</p> <p>③農畜産物の前橋ならではの販売・提案の「技」。 「道の駅」での販売に留まらず、前橋地域に利用者を誘導する工夫。</p> <p>整理表を以上の①②③に照らすと、例えばドックラン、巨大迷路、バンジージャンプ、海の魚を観て食べられる水族館、他必要ないと思われるものが沢山リストアップされております。 再考すべきです。</p>	<p>上記①に特に関連してきますが、もちろん②、③にも大いに関連します。</p> <p>この事業はDMOを視野に入れて位置づけ、これに対応可能な人材(マネージャーorマネージャー候補)の発掘が最も重要で先ず着手すべきことです。</p> <p>規定通りの機能の決定は別にして、それ以外はマネージャーorマネージャー候補と一緒に考え、決定していくべきです。</p> <p>事業の成否は人材にあります。</p> <p>日本版DMO(観光地経営主導法人・・・仮称)・・・10月に政府発表 「観光地経営」の視点にたった観光地域づくりの舵取り役として、関係者と協働しながら、地域の観光振興の実現に向けた戦略を策定するとともに、戦略を着実に実践するための調整機能を備えた法人</p>
13	南 繁芳	<p>○ 休憩機能について</p> <p>・駐車場は、「道の駅渋滞」を招かないアクセスの工夫と十分なスペース確保が必要と思われる。</p> <p>また、バスやタクシーの乗降が一般車の出入りの妨げにならないこと。</p> <p>・特に女性用トイレは、1箇所広さよりも、小規模でも設置箇所が多いことの方が利便性が高いと思われる。</p> <p>・EV充電施設は、高速充電器が必須。</p> <p>○ 情報発信機能について</p> <p>・「まえばしコンシェルジュデスク」の情報は、ニーズが高いと思われる情報の取捨選択と情報の質の確保が必要と思われる。</p> <p>○ 地域連携機能について</p> <p>・地場産の野菜・畜産加工品の販売が想定されているが、前橋産に拘らず広く群馬県内の物産も取り入れた方が、来場者の人気につながるものと思われる。</p> <p>(例：県内農産物、スイーツ、観光物産、B級グルメ、工芸品等)</p> <p>・また、特に「食」については、本「道の駅」の目的地化のためにも、全国区のキーテナント(原田のラスク、相模屋食料のとうふなど)の誘致が必要。</p> <p>・インキュベーション施設、チャレンジショップは、産官学金の連携で実現させたい。</p> <p>○ 交流・体験機能について</p> <p>・各種イベントの開催、地場産品の販売、体験農園、子供プレイルーム等が盛り込まれており、本「道の駅」が通過点ではなく目的地となる施設となっている。</p> <p>・また、家族(子供、高齢者)連れで滞在できる施設としても十分な機能が盛り込まれており、かつ、路線バス・デマンドバスの乗入れは、高齢者等の買い物弱者の誘致についても対応可能である。</p> <p>・飲食、遊戯施設等については、来場者にリーズナブルと感じさせる価格設定と品質を確保する必要がある。</p> <p>○ その他の機能について</p> <p>・水族館や地ビール工房、ワイナリーについては、中長期的な検討が必要と思われる。</p>	

15	湯川 克明	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩機能 サイクリストへの配慮は必要 ・情報発信機能 県内外の利用者に向けた情報発信。例えば定期的に発行する情報誌等の発行 ・休憩機能 足湯など少し長居出来る施設(温泉県ならではの宣伝効果やイベント性として、例えば月替わりで、1月は伊香保、2月草津、3月水上等々でリピーターにつなげる効果も期待できる) 	
16	飯塚 伸彦	<p>前橋には煉瓦倉庫がいくつか残り、前橋市も保存を目的とした一棟を保有していると承知しております。他の道の駅との差別化や前橋の煉瓦建物(県庁昭和庁舎、群馬会館など)との関連性も考え、市所有棟の移設もしくは煉瓦でのシンボル棟の新築はいかがでしょうか。煉瓦での建造物に関しては、増田煉瓦さんに相談したら良いのではと思います。</p> <p>農産物の販売スペースは多くの施設で見られ、またワンフロアでの販売がほとんどで面白みを感じられません。前橋市は多品種な野菜生産があり、養豚も盛んですので農産物の販売には力を入れ、その特色を持たせる意味で場外市場のような(イメージとしては築地の場外)ちょっと雑然としているが探索してみたいそんな空間はいかがでしょうか。</p> <p>以上2点提案させていただきます。</p>	
18	青木 朱美	<ul style="list-style-type: none"> ○休憩機能→駐車場は、大型車や観光バス等に配慮し、かなり広いスペースが必要。トイレは清潔感があり、数も多い方が良い。 ○情報発信機能→観光や利用者ニーズに対応する大事な場所でもある。 ○地域連携機能→道の駅で中心となる場所である。農業都市としての機能を満載し、楽しめる場所であってはならない。 ○交流体験機能→子供が屋外でも遊べるスペースが必要と思う。農業体験等ができる場所が理想だが、道の駅全体の面積が多く必要になってくるが、是非、収穫した物をすぐに調理できる施設があったら楽しい。(ピザ焼き釜等も) ○防災・復旧機能→防災・復旧基地となれる機能が大切 ○その他機能→農業経営者育成場所となり、施設等も充実できれば理想。 	<p>この道の駅は、風景を楽しみ活かせる場所でも無いと思うので、色々な機能重視の方向が良いと思う。とんとんのまちであり、農業都市でもあるので、地場産野菜等の「物」にこだわり、「食」にも力を入れた方が良い。食肉ミート工房、ピザ工房、パン工房等出来たてをその場で味わうことで楽しさが生まれる。食べる場所、種類も多くあった方が良い。(森のレストラン、B級グルメ、豚肉料理等)親子でゆっくり時間を過ごせる場所が必要。農産物直売所、加工販売所も品数が豊富で買い物が楽しくなければならぬ。特産物を作るのも重要。道の駅全体がウェルカムの優しさや、おもてなしのあふれる、感じられる場所であってほしい。</p>

19	伊能 良雄	<p>・地域連携機能には、マルシェの活用が必要 理由 マルシェにより地場産品の生産者直接による対面販売、試飲、試食による地場産品PR、直売による消費促進</p>	外国観光客の呼び込み
20	長谷川恵理子	<p>・導入機能、施設については、現在提案されている案に賛成。 ・イベントスペースが交流・体験機能となっているが、地域連携機能の位置付けを希望する。 ○「前橋市の道の駅」という特徴・差別化の提案 ・RVパークの設置(キャンピングカー有料宿泊スペース)5台～10台程度→キャンピングカーユーザーの中心層は60歳代。40歳から70歳代だけで全体の92.3%を占める。リタイヤ世代など、平日の集客が可能。 →RVパークを避難訓練等に利用することができる。 →一般車のPキャン(パーキングキャンプ(宿泊))を可能にした場合、道の駅に駐車、バスで前橋市内の観光・飲食を促し、周辺の温泉施設に繋がる可能性あり。公共交通網整備の検討。 →上武国道、関越道、上信越道、北関東自動車道と繋がる交通の利点・拠点を利用し、くるま旅のハブ的役割を持たせる事で、他の道の駅との差別化を図る。 →キャンピングカーユーザー及びPキャンユーザーのマナーアップセミナー(有料)などを行う事で、Pキャンパーの節度と地域住民との共存を目指す。→避難訓練として活用 理由 ・前橋市は、観光・農商工業に特化しているとは言い難く、認知度・ブランド力も最下位だが、生活や子育てのしやすい都市として認知は高く、自動車保有率も高い。→休日の家族サービスや近場旅の場として利用。潜在的なPキャンユーザーは多い。</p>	<p>○赤城おろし対策(春秋冬) ・施設デザイン・設計での対応となると思うが、山側に防風林を設けるなど、外観や環境に配慮した対策が必要。 ・赤城おろしを体験できるポイント・風力発電・水力発電設備なども前橋市らしさ。 前橋市という立地やブランド力から見て、前橋市役所政策推進課の掲げる「日本一」の構想・コンセプトが曖昧であり、「前橋市らしい」農・商・工業を踏まえた上で、プラスαの差別化を求めたい。</p>
		<p>1. 休憩・防災機能 ①トイレ:ユニバーサルデザインとし障害者も使いやすく【高齢者や弱者への配慮】 男子も座り小用が多くなりつつあるので座り便座を多く【男子への配慮】 ② 駐車場:入り口は側道・新設荒牧―関根線・北側の県道の3箇所を確保する【車の出入りやすさは重要】 バイク・自転車の駐車スペースはラック・屋根付きとする【当地の重要な移動手段・ライダーはロコミ発信者となる】 屋外自販機(24時間対応)とエアコン付き簡易休憩所の設置【コンビニ導入よりもエコ・省スペースで可能でかつ安全】 EV・水素充電器の設置【新交通システムへの適応】 広さを確保【女性ドライバー対応スペース】 2. 情報発信機能 ①コンシェルジュは近隣観光コースの運営デスクも兼務【不動産や雇用情報はそぐわないのでは、対象はワンストップで済む事案とする】 ② メディアの利用は不可欠だが効果は一時的に終わる【ロコミ・グループ内で噂が広まる機能・要素作りが長期的に最善】 3. 地域連携機能 ① 学校給食メニューの提供【提案の狙いがわかりません 個性的な良いメニューを考える】 ② 棚田米の販売【見学・供給可能な大規模な棚田があれば良いですね】</p>	<p>道の駅・建設の基本的な考え方 1. 理念 市民および全国に対して前橋市を売り込み、再認識させる機能・内容・接客体制を有する施設とする 「道の駅」以外の馴染みやすく・内容が理解しやすい名称を使う(冠として不可欠なのでしょうか?) 市民を初期段階から建設に関与させ、市全体の盛り上げりを作る(名称の公募・機能の要望・商品開発・参加の意向などを聞く) 市民の精神的な支えや共通の旗印になるものとする 年間を通じてお客を呼べ、リピーター率が上がる要素(機能)を高める 対象は児童・親・高齢者(家族)を中心にする リピーターを獲得するために体験事業(農業・物づくり・遊びなど)を多くし【「農」+「食」+「健康作り」】を柱とする テーマパーク化する この内「自然」は得難い立地であり時間を掛けて現地に再生する</p>

- ③ 既存直売所出店コーナー【不用。各店の自助努力とイベント等の横の連携で共に伸びる】
【独自商品や人は限られ、奪い合いになる 売れば自然に集まる】
 - ④ コンビニ導入【不用。資金・面積抑制、屋外の自販機コーナーは雨露がしのげる簡易施設化】
 - ⑤ うどん暖簾街の設置【前橋の粉食文化を伝える 市内業者のコンペの開催】
 - ⑥ 「サラダの需要が多い都市」を売り出す【群大・健大と連携して栄養・機能性が高い新食材の提案】
 - ⑦ 乳酸飲料(1位)やヨーグルト・ドレッシング(3位)【健康長寿原因の解析 更に伸ばす新提案をリンクさせる】
 - ⑧ 商品開発部の設置【新商品の開発方向付け 各部門・団体の間の調整】
【加工施設は利用度の予測が不可欠 既設の利用促進、6次化は設備ではなく「売るため」の発想転換の教育が先決】
4. 交流・体験機能
- ① 水田は一部の水路などの改修(自然に戻す)【田んぼの生き物復活作戦 地形を生かして公園化】
 - ② ザリガニ(日本在来種)・鮒・鯉・タナゴ・ホタル・ドジョウなど【飼育・鑑賞・釣り掘り化・つかみ取りなど】
 - ③ 樹木が無い(日陰・風景が不足)【平地林を作り昆虫の飼育・観察路作り、河川を取り込み沿いには並木道(散歩)を作る】
 - ④ 屋外テント 休憩・催事・交流などに利用【滞留時間を長く出来る】
 - ⑤ 園内と近隣の周遊散歩道の設定【地域資源を生かす 巨木・古墳・段丘などを巡回】【電動自転車が必要】
 - ⑥ 食農教育のための学校農園開設【農業・食へのファン作り 食育教育の前段として重要 【既設が持たない機能】
 - ⑦ 市民農園開設と新規就農希望者への指導機能【研修室・調理室・シャワー室・収納庫・農具】
 - ⑧ 保育所(園)開設【整備する公園機能を遊び場として利用 人が集まる】
【若い定住者の呼び込みに繋げる】
 - ⑨ 水田をそのまま利用し米・裏作の小麦作りと食べる体験【田んぼアート作りも】
 - ⑩ 桑園と飼育体験施設を作り桑の葉・実の利用【糸の町復活へ 養蚕体験 桑園間作ホーレンソウの栽培体験】
 - ⑪ 宿泊施設と展望台 バラ栽培施設【不用。展望台を作るよりも現地に誘導する】
【バラ栽培施設は既設と重複する 展示販売は要促進】
 - ⑫ キャンプ場【不用 BQ場は開設】
 - ⑬ バンジージャンプ・クライミング【不用 危険でマニアックすぎ 後者は子供用】
 - ⑭ 交流・展示スペース【上毛カルタの紹介実演体験・ローカルカルタ全国大会開催】
 - ⑮ 市内各種団体との連携【地区ごとの伝統芸能の紹介・各種サークルの発表会】
 - ⑯ 地場産品の製作・技能者による実演販売【前橋市の技能者と物品の紹介 刀鍛冶 ランドセル製作等】
 - ⑰ 田んぼの生き物やカブト虫等の復活【子供が喜びリピーターになる要素として大きい】
 - ⑱ ドッグラン・ペットの扱い【前者は施設規模から無理ではないか 好き嫌いが大きい】
5. 農産物直売所(農業者なのであえて別項としました。重複も有ります)
- ① 新規就農者の養成・定住促進機能【優秀な農家商品の独占的確保を進める】
 - ② 地元産品の開発と販売率を高め、高品質を維持する【研修や開発機能を持つ 仕入れは止め前橋産に限定する】
 - ③ 弱者対策【新規就農者や施設作業所などの産品コーナーの設置】
 - ④ 野菜・果物・乳製品の健康増進効果を生かす【機能性野菜・ハーブ・ヨーグルトなどの乳製品など】
【健康寿命に結びつく物品販売コーナー設置】

現在のコンセプトでは「食」が欠落しておりメインテーマとし前橋の「魅力発信—地域資源の提供・発掘・創造—都市と農村の交流空間」作りと共に進める
建物は平屋建てとしユニバーサルデザインとする(養蚕農家づくりはこれに適している)
構内は、建物及駐車場・公園・畑(栽培用地)・水田の区分とし遊歩道で繋ぐ
ソフトとハードの両面でリピーターと共に成長していく将来計画を策定し、用地を確保しておく 後付・外付けのもぎ取り園なども併用する
「待ちの駅」から「外向きの駅」とし「中途半端で何処にでもある」施設にしない
既存施設に無い機能を考えて差別化・競合を避ける(お互いに生き残るために)
扱う商品・情報は可能な限り前橋市に限定化し(拡大しても県内)、施設の特徴を明確化し、あわせて地域産業の活性化につなげる
来訪者を生産者・原地・施設などに誘導するシステムとする

2. 商品・販売などについて
大口事業者に丸投げせず、各団体・市民が参加し自助努力で機能を高め地域特性を生かす
スーパー化せず、現在社会的ニーズが高い外向なコンビニ化を自ら進める 同時に「無いものは無い」と言える勇気も持つ
既設の近隣道の駅の得意分野は侵食せず 前橋は新たな分野を起こし、互いに競い合い伸びることを基本方針とする
納品・出荷者とは、緊急時には優先的に物品を補給する契約を結び、施設全体を危機避難所化できる体制を作る
各部門は勿論だが、商品開発を推進・統括する部署を設置する(店長権限の独立性確保)
配送機能を持ち生産・製造者からの集荷を行い(質と量の確保)、併せて学校等・買い物難民・インショップなどに展開する(外商)
販売員は上州弁を使う

3. 特徴づけの要素(第一位を目指す)
「健康長寿の都市(男10位・女2位)」を売り出し、群大保健学科や健大健康栄養学科と健康増進のための事業・商品の開発
「粉食文化」をもっと宣伝し売り出す場とする(県庁所在都市及び政令指定都市でうどん・そばの消費量2位)
「サラダ・乳製品・ヨーグルトの消費量が多い」ことから健康と関連付けて新商品開発を進める

		<p>⑤ 集配機能を持ち集荷・外商を行う【市内南部・東部地域の農家からの出荷促進品揃えの強化】 【買い物難民・学校給食・各種施設への販売強化 地場産率向上へ】</p> <p>⑥ 残った野菜は買取り加工等で再商品化【夕方の残の引き取りは農家にとって辛い 6次化へ進める】</p> <p>⑦ 教育機能【品質維持・開発のために不可欠】</p> <p>⑧ 前橋で育成された品種の栽培【既設で大根を実施中だが他にもあるので 食材として提供】</p> <p>6. 防災・復旧機能</p> <p>① 緊急時用のマンホールトイレ・給水・小水力・太陽光発電・井戸【緊急時の必需性が高い】</p> <p>② 緊急時の食品などの生活必需品の確保【参加事業者との契約文章に盛り込み確保する】</p> <p>③ 防災センター・詰め所【不用 雰囲気は馴染まないし中途半端な機能は役に立たない】</p> <p>④ 医療施設【不用 本格的な施設維持は困難 但しエイドセンターは必要】</p> <p>⑤ 広場【イベント等にも利用するので必要】</p> <p>7. その他の機能</p> <p>① 水族館・温泉施設・ホテル・プラネタリウム【不用。中途半端な施設では人を呼べない】 ミュージアム・ミニ遊園地・宿泊施設・特に温泉は既設が得意としており避ける 建設費増大要因</p> <p>② エネルギー【バイオマスは技術開発が進めば導入 太陽・小水力の推進】 【5年後には水素も必要となる 既設が持たない機能】</p> <p>③ 物流【市内で運行ならば小面積で可能 運送業にならない既設が持たない機能】</p> <p>④ 調整池【ビオトープの一部として水生植物園化】</p> <p>⑤ 地ビール【良い水脈(伏流水や旧利根川の地下水)が見つければ外注醸造】</p> <p>⑥ ウォーキングコース【園内に不可欠 クヌギ・コナラ・柳など植えて日陰と昆虫の棲家に】</p> <p>⑦ 保育所(園)【「森のようちえん」的な性格とし定住促進・平日も賑やかになる 既設が持たない機能】</p> <p>⑧ 遊 具【自然の中で遊んでもらう方向とし 遊具は最小限でよい】</p>	<p>市内の伝統芸能や文化を集めて上演・展示・参加を推進 上毛カルタ全国大会主催など</p> <p>用地の地勢を生かす機能の導入(伏流水・旧利根川地下水脈・水田・水路・河川の利用など)</p> <p>「糸の町」を復活</p> <p>4. 避けるべきこと</p> <p>加工施設は新たに設置せず各所・団体にある既存施設・ 大学施設などを利用(予算抑制)</p> <p>温泉利用は既存施設の得意分野であり、掘削・メンテナ ンスに巨費を要するので導入しない(予算・面積抑制)</p> <p>コンビニ導入はしない(自助努力の障害となる)</p>
22	中島 利郎		<p>仮称「ぐんまの農業学校直売所」</p> <p>特色のある道の駅の在り方が問われています。私共のグループでは、全国初の“農業の六次産業化”を行う中央農業グリーン専門学校を5年前に設立し、現在、人材育成に努めています。</p> <p>群馬県内には農業高校が8校、農業大学校が1校、農業専門学校が1校あり、合計10校の農業学校があります。そして、毎年、新鮮な農作物が沢山収穫されています。</p> <p>そこで、この道の駅に中央農業グリーン専門学校が中心となり「ぐんまの農業学校直売所」を設置し、県内の農業学校で収穫された新鮮な農作物を、年間を通して販売することを提案します。</p> <p>全国初の農業学校直売所により、東京をはじめ各地より人々が訪れるものと思料されます。また、道の駅敷地内に、特徴となるよう中央農業グリーン専門学校のキャンパスを建設することも考えられます。</p> <p>以上の通り提案いたします。</p>

①休憩機能

- ・RVパーク(県内では、道の駅おおたにある。車中泊などをする人への配慮。1日 ¥2,000～5台分くらいのスペースと場所)
- ・授乳室
- ・大型車が入れるような駐車場(ただし、大型車と小型車はきちんと分け、大型車は店から見えないあたりにあるのがよい。道の駅玉村のようなイメージ。大型車が近いとイメージが悪いと道の駅の運営者から指摘があった。ただし、現場を見る限り、どんなアプローチで車を止めさせようと考えているのかがイメージできなかった)
- ・お年寄りに優しいスロープ、手すり、買い物カート(道の駅の利用者は、高齢者が比較的多いという特徴があるため)
- ・駐車場、駐輪場のわかりやすさ(利用者への配慮)
- ・園内を周れる乗り物、移動手段(ただし、かなり大きい道の駅の場合)

②情報発信機能

- ・近代的な情報公開(紙ではなくタブレットなどで提供)
- ・電光掲示板、タッチパネル式(例えば、野菜などに関しては、生産農家の顔が見られる、農薬、PM～情報など。道路を含めた近隣情報の提供)
- ・Wi-Fiスポット(最近では必須では?)
- ・携帯、カメラ充電エリア(あったらうれしい)

③地域連携機能

- ・前橋らしさを出すこと(特産物など。販売の企業等も前橋にこだわる)
- ・コンビニ(24時間、警察官立寄所、防犯)
- ・ここですべて売るのはNG(道の駅藤川宿(愛知・岡崎市)では、お土産類を展示しているが、その販売は別の場所にあるコンビニという商品が多かった。これでは、販売機会を逸している)
- ・直売所(珍しい野菜を集めるのは効果あり。また、カートが利用できる設計に)
- ・レストラン(地元食材を地元の人の手で調理することで、地元密着・地域感の創出)
- ・海外友好、連携都市の名物を販売(レストランのメニューにも活かす)
- ・例:イタリア オルビエート市、アメリカ バーシングハム市メナーシャ市
- ・種類豊富なオリジナル商品の販売(バラ、つつじ、けやき、いちょうなどをイメージ、ここでしか買えないものとして)
- ・前橋市内の学校(小～大)が開発した商品の販売(教育的側面もあり)
- ・地元企業のチャレンジショップ(地元企業の支援)

④交流・体験機能

- ・スポーツ(家族向けレジャー:ボルダリング・スラックラインなど)
- ・地域イベント(農業体験→田植え、脱穀など/現状の付近の様子から)
- ・その作物の様子などを時系列で写真掲載
- ・群馬の野菜ハウス(体験もできる 例えば、しいたけハウスなど)
- ・出張出店・露店スペースの確保(SAのイメージ、イベントをやっているかのように見える)
- ・ペット向けの預かり・遊び施設(滞在時間の延長)
- ・子供向けの預かり・遊び施設(滞在時間の延長)
- ・憩いの場・庭を作る(世界が認める景観アーティストで「緑の魔法使い」とも言われるガーデンデザイナーの石原和幸氏の設計/話題性)
- ・ホテルの鑑賞(このエリアはホテルで有名)
- ・図書館(プレイルーム併設。パソコンも本も使え、休憩施設としても)
- ・元気プラザ21のようなイメージを郊外に
- ・図書館カウンター

※今回の事前に現場を見に行くことになっていることは評価するが、いまさら感があり、すごく遅い。今回の意見書は、現場を見てから行うのが最低条件であると感じる。現場を見ずに機能だけを求めて意見を出すことは、「絵に描いた餅」「机上の空論」みたいなもので、できないことまでも意見が出る可能性があり、その点は無駄な議論が行われるかもしれないことは否定できない。

※現場を見てきたが、なぜここが候補地になったのかが、さっぱりわからなかった。道の駅の大きさに関わる土地の面積は別として、車がどうこの道の駅にアプローチするかは事前に説明すべきではなかったか。学生とアプローチができるかを議論したが、残念ながら絵は描けなかった。つまり、与えられている情報量が不足している、ということになるであろう。

※市内の道の駅には承諾を得ている、という話であったが、学生を通したヒヤリングの結果、実際にはそのようには思っておらず、不満を持っていたり、心配をしていたりする様子があった。それをどのように払しょくするか。それは市の対応が必要であり、「この道の駅は皆さんのところとは違う」という差別化が必要でもあると感じた。

※上武バイパス沿いということで、マナーの問題が出る可能性が高い(近隣の住民に迷惑がかかることが懸念される。実際に、パフォーマンスや集会、大音量で音楽を流す等を行っている事例がある)。それをどのように対応するのか。

※経営感覚がある人・会社が運営をする必要があるだろう。そのためには、本来、計画段階で入っている必要がある。しかしながら、どのような形で運営するのかも決まっていなるとのことなので、そこは成功を大きく左右することになるかもしれないと感じている。

※市長が言う「日本一の道の駅を目指す」が本当であるならば、もっと事前準備が必要でないかと感じた。できるだけいいものを作るのに協力したいが、それを補完するために提示された資料が少なすぎる。

		<p>⑤防災・復旧機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅とその周辺に外灯を多く設置(このエリアは暗いため、住民の安全と防犯を意識) <p>⑥その他の機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉、足湯(お客の足をとめるため) ・ガソリンスタンド(この近辺にはなく、足をとめるにも有効) ・太陽光発電など(エネルギーの自給自足) ・宿泊施設 ・自然を感じられるような構造物がいい(木造など) ・天然記念物への誘導(横室の大カヤなど) ・その道の駅をイメージさせる花、特徴的で目立つ建物などを意識 ・例:赤城の恵→あじさい、大胡ぐりーんふらわー→風車 ・道の駅の「名称」に工夫(イメージアップやPRに有効) ・バスツアーなどの計画 	
25	角田 雄二	<p>【休憩機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車スペースの確保(最低500台・トラック20台バス20台・身障者・思いやり) ・ガソリンスタンド、EV・水素ステーションの設置 <p>【地域連携機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食堂やレストランについては目玉となるメニューの開発が必要 ・販売所には農産物や前橋特産品その他、鮮魚センターも検討 <p>【交流・体験機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンボルになるタワー(例えば、15m以上の三層櫓等)が必要 ・子ども連れ家族のリピーターを増やすため、野外に遊び場(遊園地等)の開設が必要 ・研修や各種会議、教室ができる施設の設置が必要(100~200人収容可) <p>【防災・復旧機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時等でも使用できる、大型トラックの車両整備施設の設置が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積は15,000坪で総額30億円予算の確保 ・経営は株式会社方式